

ようじえんだより 2016年度6月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

6月主題『感じて』

主題聖句：見よ、それは極めて良かった。 創世記1章31節

☆ 0～2歳児：友だちや身近な物事に関心をもつ。遊びや自分の思いが大切にされていることを感じる。さんびかや祈りの言葉に心を合わせる。感染症に気を付けながら健康に過ごす。

☆ 3～5歳児：神様の創られた自然の不思議さに目を向ける。いろいろな物を使って遊び、興味や関心が広がる。友だち保育者の言動、遊びに心を動かす。トラブルを通して友だちの思いを知る。保育者の援助を受けながら、共に考えてみる。

5月19日に年長すみれ組の子どもたちと一緒に松之山に田植えに行ってきました。私も含めて初めての田植えを経験した子どもたちは、泥でなかなか前に進めない苦勞を体験し、田んぼの中のいろんな生き物の存在を知る貴重な機会となりました。快晴のお天気のもと、松之山の美しい田園風景の中での田植えは「ここで日本一美味しいお米が収穫されるんだ！」という感動を与えてくれました。美味しいお米は農家の方々の労力と努力の結晶ですが、その時の天候にも大きく左右されることでしょう。お天気は人間にはコントロールできないことを思う時、収穫の恵みは神様から与えられたものであるとも言えると思います。

6月の主題聖句である「見よ、それは極めて良かった」という言葉は、天地創造の際、神様がお造りになったすべてのものを見て語られた言葉です。私たちは他人からどのように評価されようが、神様の目から見ると、みんな「極めて良い」存在なのです。しかし私たちは、誰一人同じ存在はいないことを頭ではわかっているながらも、人

と自分を比較して、優越感に浸ったり、劣等感を植え付けられたりします。また自分の子どもを誰かと比較して落ち込んでしまうこともあります。

私は比較すること(されること)自体は仕方のないことだと思っています。私たちは日常的に何かと何かを比較したり、また誰かから比較されて評価されているのです。ただし比較した結果、優劣をつけ、劣っていると判断した存在に「優れた存在にあなたもなりなさい」と強いることは、その人の本来与えられている良さを潰してしまうことになりかねません。

親としてわが子にイライラしてしまうことはあると思いますが、臨床心理学者で文化庁の長官を務められた河合隼雄さん(故人)は「イライラは相手に対する期待が高すぎるか、ズレているのです」とおっしゃっています。子どもはその子なりに成長し、「今」を生きています。「みんな違ってみんないい」と心から言える人になりたい!と思っている今日この頃です。

園長：久保田愛策

年間主題『平和をともに』

主題聖句：キリストはわたしたちの平和であります
新約聖書 エフェソの信徒への手紙 2章14節